



新型コロナウイルス感染症流行に伴う 乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査 【中間集計結果報告】

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター（Cedep）

cedep@p.u-tokyo.ac.jp

本報告は、4月30日～5月4日までの集計値のため、結果は暫定的なものです。
5月12日の調査終了後に最終的な結果の報告を行う予定です。

調査の概要

- **調査目的：**

- 新型コロナウイルス感染症の流行、ならびにそれに伴う社会情勢の変化が、保護者や子どもの日常生活や心身の健康にどのような影響を与えているのかを明らかにすること

- **対象者：**就学前の子ども（0～6歳）をもつ保護者

- **調査内容：**

1. 回答者の基本属性（お子さんとの続柄、家族構成、現在の就労・勤務状況など）
2. 養育環境の変化（育児時間や育児方法の変化、子育てに関して現在心配していることなど）
3. お子さんの生活環境の変化（屋内・屋外での活動、メディアの利用状況など）
4. お子さんの状態の変化（食事・睡眠の状況、心理・情緒面の変化など）

※3、4については、特に最年少の子どもについて聴取した

- **実施時期：**2020年4月30日～5月12日

- **調査方法：**インターネット調査

- 東大Cedepこども研究員登録者への協力依頼（メール）
- 保育・幼児教育団体加盟園が、自園の保護者に協力依頼（メール等）
- Cedepウェブサイト上での協力依頼

- **倫理的配慮：**

- 東京大学ライフサイエンス研究倫理支援室に研究プロジェクト申請書類を提出し、緊急時下での審査手続きを経て実施中

回答者の属性（中間集計, N=1452）

1. 回答者の続柄

回答者	回答数	割合
父	98	6.7%
母	1354	93.3%
その他	0	0.0%

2. 回答者の年齢

カテゴリ	回答数	割合
10代	2	0.1%
20代	190	13.1%
30代	965	66.5%
40代	290	20.0%
50代	5	0.3%

3. 最年少の子どもの年齢

最年少の子どもの年齢	回答数	割合
0歳	214	14.7%
1歳	458	31.5%
2歳	308	21.2%
3歳	201	13.8%
4歳	143	9.8%
5歳	107	7.4%
6歳	21	1.4%

※最年少の子どもの年齢が2歳以下の保護者が主たる回答者である

1. 園再開後は、子どもの再適応に向けた配慮が必要

- 3歳以上の子どもについても、登園・登校しぶりが生じたり、園への再適応に困難が生じる可能性のある児が少なくない
 - 乳児突然死症候群（SIDS）のリスクの高い乳児だけでなく、幼児についても園への再適応に向けて、必要に応じて慣らし保育を行う、はじめは長時間利用を避け様子を見ながら利用時間を延ばしていく、園で移行カリキュラムを作成するなどの配慮が必要であると考えられる

園再開後、 登園・登校しぶりを示す	0～2歳		3歳以上	
	回答数	無回答を 除く割合	回答数	無回答を 除く割合
あてはまらない	207	30.5%	181	41.6%
どちらとも言えない	239	35.2%	134	30.8%
あてはまる	233	34.3%	120	27.6%
無回答（昨年度は在園していなかった児を含む）	301	-	37	-

園再開後、 園の生活への適応に困難が生じる	0～2歳		3歳以上	
	回答数	無回答を 除く割合	回答数	無回答を 除く割合
あてはまらない	241	36.6%	215	49.7%
どちらとも言えない	292	44.3%	156	36.0%
あてはまる	126	19.1%	62	14.3%
無回答（昨年度は在園していなかった児を含む）	321	-	39	-

・園再開に向けた家庭での配慮・対応

- ・ 就寝・起床時刻が後ろ倒しになっている子どもが3割以上
- ・ 2時間～それ以上睡眠習慣が後ろ倒しになっている子どもも5%以上
→再開に向けて、徐々に以前と変わらない生活リズムに戻していく必要がある

就寝時間の変化	割合
2時間よりもっと早い	0.1%
2時間程度早い	1.1%
1時間程度早い	4.0%
30分程度早い	3.2%
あまり変わらない	56.7%

起床時刻の変化	割合
2時間よりもっと早い	0.3%
2時間程度早い	0.9%
1時間程度早い	5.0%
30分程度早い	3.7%
あまり変わらない	55.9%

30分程度遅い	10.7%	30分程度遅い	10.5%
1時間程度遅い	17.0%	1時間程度遅い	17.3%
2時間程度遅い	4.8%	2時間程度遅い	4.9%
2時間よりもっと遅い	2.1%	2時間よりもっと遅い	1.5%
わからない	0.1%	わからない	0.1%

2. 保護者の精神的健康への配慮が必要

- WHO精神的健康状態表（WHO-5）

- 5つの肯定的な項目により過去2週間の精神的健康状態（well-being）を測定
 1. 明るく、楽しい気分で過ごした。
 2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした。
 3. 意欲的で、活動的に過ごした。
 4. ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた。
 5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった。
- 合計得点が**13点未満**もしくは**いずれかの項目に「0（まったくない）」**あるいは**「1（ほんのたまに）」**と回答した場合には精神的健康が低いとみなし、うつ病の医学的スクリーニング対象となる

- 調査に回答した保護者の得点

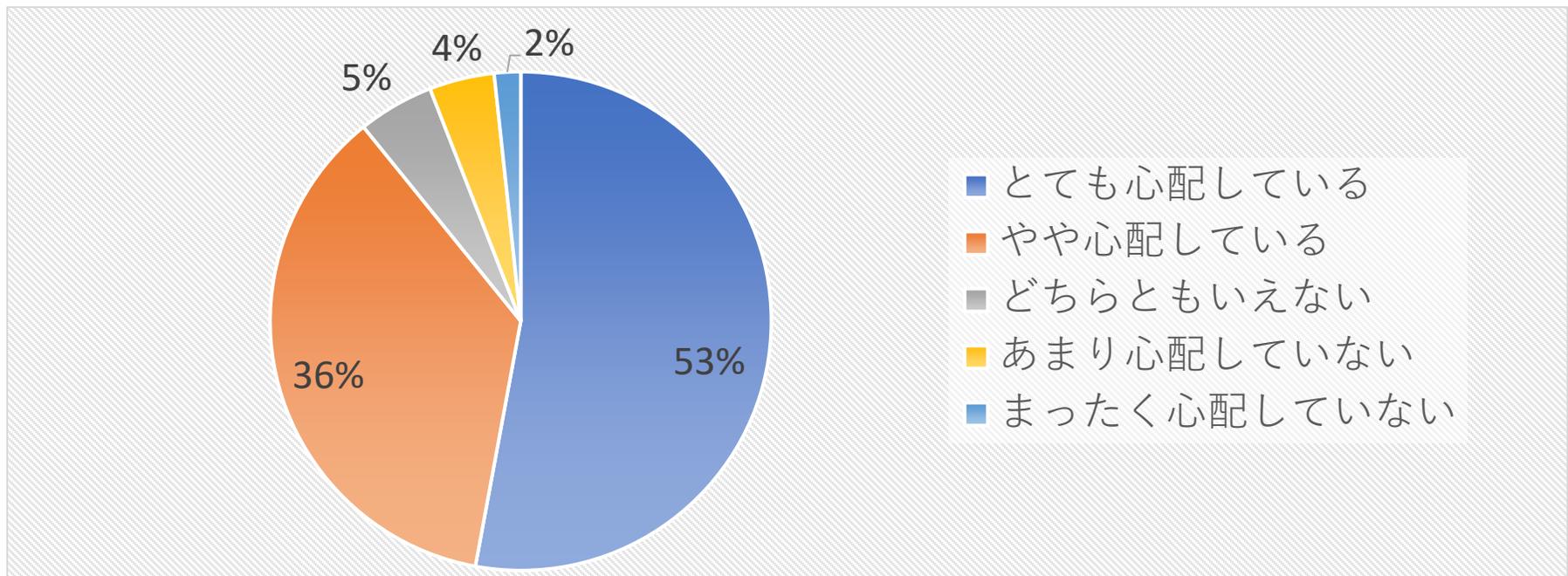
- 平均**12.41**点（標準偏差5.68）
- 13点未満の者の割合...**51%**（1452名中、738名）
- うつ病のスクリーニング対象基準を満たす者の割合...**55.4%**（1452名中、804名）

→精神的健康状態があまり良好でない保護者の割合が多くなっている

保護者の精神的健康度と関連する要因

新型コロナウイルスに感染することに対する不安

- 設問「以下について、あなたは現在、どの程度心配していますか？
[d] 自分や家族が新型コロナウイルスに感染しないか」に対する回答（下図）
- 感染を「とても心配している」保護者は半数以上にのぼった
- 「とても心配している」保護者では、精神的健康度の平均値が13点未満であった



自由記述 では保護者が、新型コロナウイルス感染症の予防法、特定地域・場所の感染リスク、感染した場合の危険性、同居する家族（大人）が全員重症化してしまった場合の子どもの保護・保育のあり方、抗体検査等に関する情報を求めていることがわかった

3. 子どもの様子の変化：過半数の子どもが普段通り落ち着いて過ごしている

- ・ イライラやパニック、恐怖や不安を示す行動について、「変化がない」「もともとみられない」「減った」子どもが6割～7割以上であった一方、「増えた」子どもも1割～3割いる
 →自由記述では、外遊びや園での活動が好きな子どもが好きな活動ができず不機嫌になったり、悲しんだりする様子が記されていた。ニュースで新型コロナウイルスのことを知り、外に出ることを怖がる子どもの姿も記述されていた
- ・ その一方で、保護者に対して思い切り甘えたり、普段よりも家庭内で楽しく・活発に過ごしている子どもも多くいることがわかった

選択肢	わけもなくいら いらしたり、不 機嫌だったりす る子どもの様子	突発的なことが 起きたり、自分 の思い通りにい かなかったりす ると、パニック を起こす子ども の様子	恐怖や不安の表 れ方で心配な子 どもの様子	子どもの笑顔や 笑い声、または 活発に楽しそう に遊ぶ様子	いつもよりベタ ベタと大人に くっついてきて 離れないなど、 大人に甘える様 子
もともとみられない	8.8%	11.6%	14.0%	1.9%	3.4%
減った	0.6%	0.7%	0.8%	8.5%	0.4%
やや減った	1.8%	1.1%	1.1%	1.0%	1.4%
だいたい同じ	54.8%	62.5%	72.2%	66.7%	47.7%
やや増えた	26.0%	18.4%	9.2%	15.5%	31.6%
増えた	8.1%	5.6%	2.6%	6.5%	15.5%